

2020年4月28日

投資者の皆様へ

T&Dアセットマネジメント株式会社

「資源ツインαファンド(通貨選択型)」の基準価額の下落について

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

足許の市場動向と「資源ツインαファンド(通貨選択型)」の基準価額への影響に関しまして、下記の通りご案内いたします。

今後ともお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

◆ 「資源ツインαファンド(通貨選択型)」の基準価額

コース名	2020年 4月27日 基準価額(円)	2020年 4月28日 基準価額(円)	騰落幅 (円)	騰落率 (%)
ブラジルリアルコース	197	177	▲20	▲10.15
トルコリラコース	290	268	▲22	▲7.59
米ドルコース	523	484	▲39	▲7.46

(騰落率は小数点第3位四捨五入)

◆ 市況情報

	2020年4月24日	2020年4月27日	騰落率 (%)
WTI 原油先物価格	16.94	12.78	▲24.56
COMEX 金先物価格	1,735.60	1,723.80	▲0.68

(小数点第3位四捨五入)

海外の市場については基準価額への反映を考慮し、4月24日と4月27日を比較しています。
WTI 原油先物価格の単位は米ドル/バレル、金先物価格の単位は米ドル/トロイオンスです。

	2020年4月24日	2020年4月27日	騰落率 (%)
ブラジルリアル(対米ドルレート)	0.1758	0.1773	0.88
トルコリラ(対米ドルレート)	0.1433	0.1431	▲0.13
米ドル(対円レート)	107.44	107.20	▲0.22

(ブラジルリアルとトルコリラは小数点第5位四捨五入、米ドルおよび騰落率は小数点第3位四捨五入)

為替レートは、WMロイター社が発表するロンドン時間午後4時のレートです。
ブラジルリアル(対米ドルレート)とトルコリラ(対米ドルレート)の単位は米ドル、米ドル(対円レート)の単位は円です。
各レートについては基準価額への反映を考慮し、4月24日と4月27日を比較しています。

出所:ブルームバーグ

◆足許の状況

OPEC(石油輸出国機構)加盟国やロシアなどの主要産油国の中で原油の協調減産が合意に至りましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の防止策として世界各国で実施されている都市封鎖や移動制限によって経済活動の停滞からもたらされる原油需要の減少を補うには不十分との見方が強まっております。米国内では、大幅な需要減少によって在庫が滞留し、原油の現物を貯蔵する能力に限界が近づいていると懸念される中、世界最大規模の原油のETF(上場投資信託)において原油先物取引をロールオーバーする(期近物から期先物に乗り換える)意向が示されたことから、需給悪化懸念が再燃した期近物の原油先物価格は大幅に下落しました。

このような市場動向により、ファンドの基準価額は前営業日比で 5%超の下落となりました。

◆今後の見通し

原油先物市場は引き続き不安定な相場展開が見込まれます。欧米の一部の国や地域では、新型コロナウイルスの感染者増加にピークアウトの兆候が見られ、外出規制の緩和を検討する動きもみられますが、依然として都市封鎖の完全な解除や通常の経済活動の再開までにどの程度の期間を要するかは不透明なままとなっております。原油需要の大幅な減少が見込まれる中、主要産油国の協調減産による需給環境の改善に向けた効果には懐疑的な見方が強まっております。

上記のような景気の先行きに対する不透明感に加え、新興国では脆弱な財務基盤や政治・地政学リスクなどの不安要素が多く、新興国通貨への警戒感が強いいため、ブラジルレアルやトルコリラも不安定な動きが続くと見られます。米国内での感染者が世界最多となり、失業者の大幅な増加や各種経済指標の悪化を背景に、財政赤字やGDP比での政府債務が拡大する中、米ドルも荒い値動きとなる可能性があります。

以上

当資料はT&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また投資信託の取得をご希望の場合は、下記のご留意事項を必ずご確認ください、ご自身でご判断ください。

投資信託のお申込みに際してのご留意事項

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券、投資信託証券など値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)をよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

投資信託に係る費用について

◇投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料・・・上限 4.40%(税込)

信託財産留保額・・・上限 解約金額・償還金額の1.00% または1口(設定時1口1万円)あたり250円

◇投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)・・・上限 年2.035%(税込)

その他費用・手数料・・・上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。

投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額に関しましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

*上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

*詳細につきましては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T&Dアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をよくお読みください。